

■令和5年度に実施する調査の概要

次期さっぽろ未来創生プラン策定に向けた基礎調査として、令和5年度において、結婚・出産・子育てなどに関する市民の意識調査や、低出生率、社会増減の要因分析などの調査を実施

調査項目	内容
結婚・出産・子育て市民アンケート	有配偶者に対する出産・育児に関する意識調査及び独身者に対する結婚及び出産・育児に関する意識調査のためのアンケートを実施
データ分析に基づく少子化の要因調査	札幌市の合計特殊出生率は他都市に比べ低位にあるが、明確な理由が判明していない状況 →札幌市および他都市に関する様々なデータ(出生率、有配偶者率、就業状況など)を分析し、データ間に有意な相関関係がないか、または、他都市と比較して特に高低のある項目・数値がないかなどを調査
社会動態に関する意識調査	札幌市では男女とも20-29歳が大幅な転出超過となっており、若年層の地元定着が課題 →若年層の地元定着や市内転入の促進に効果的なアプローチ方法などを検討する際の参考とするための調査を実施

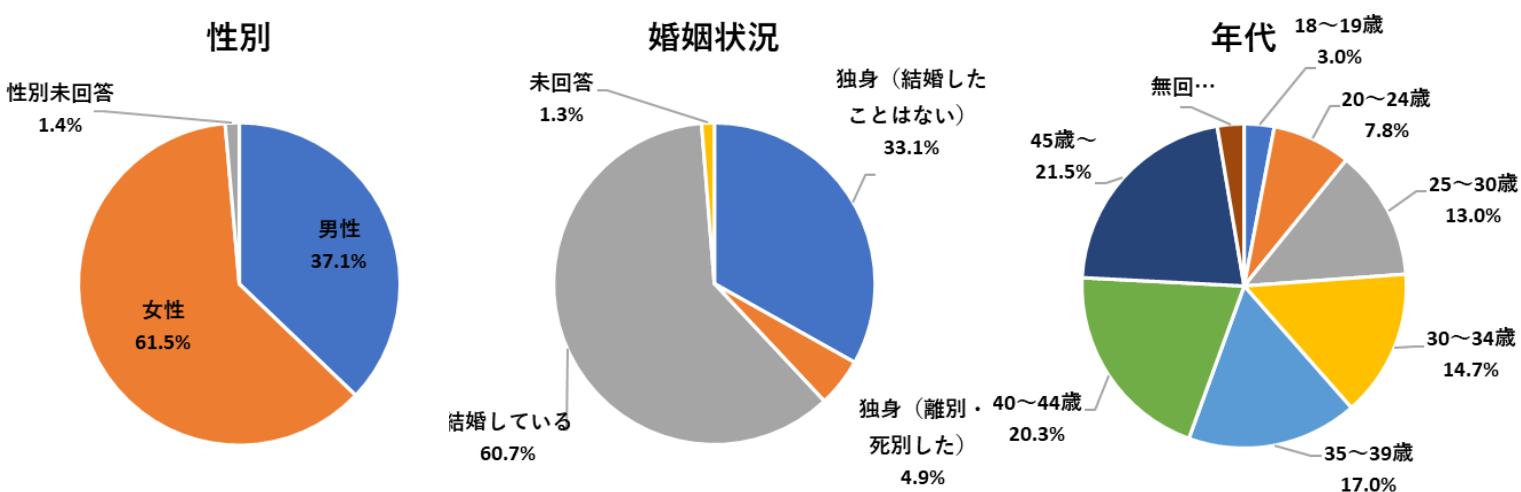
■結婚・出産・子育て市民アンケートの結果

R5.8.4～8.21実施

市内の18～49歳の男女10,000人ずつ 計20,000人に送付

有効回答数4,059件(回答率約20%)

○回答者の属性



○希望出生率について

<国民希望出生数>

国が実施している「出生動向基本調査」に基づく、結婚を希望する男女の持ちたい子ども数、夫婦の予定子ども数などから算出した、希望などが叶うとした場合に想定される出生率

【計算式】

$$\begin{aligned} \text{国民希望出生率} = & \text{有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数} \\ & + \text{独身者割合} \times \text{独身者のうち結婚を希望する者の割合} \\ & \times \text{独新者の希望子供数} \\ & \times \text{離死別などの影響} \end{aligned}$$

○市民アンケートに基づく本市の希望出生率

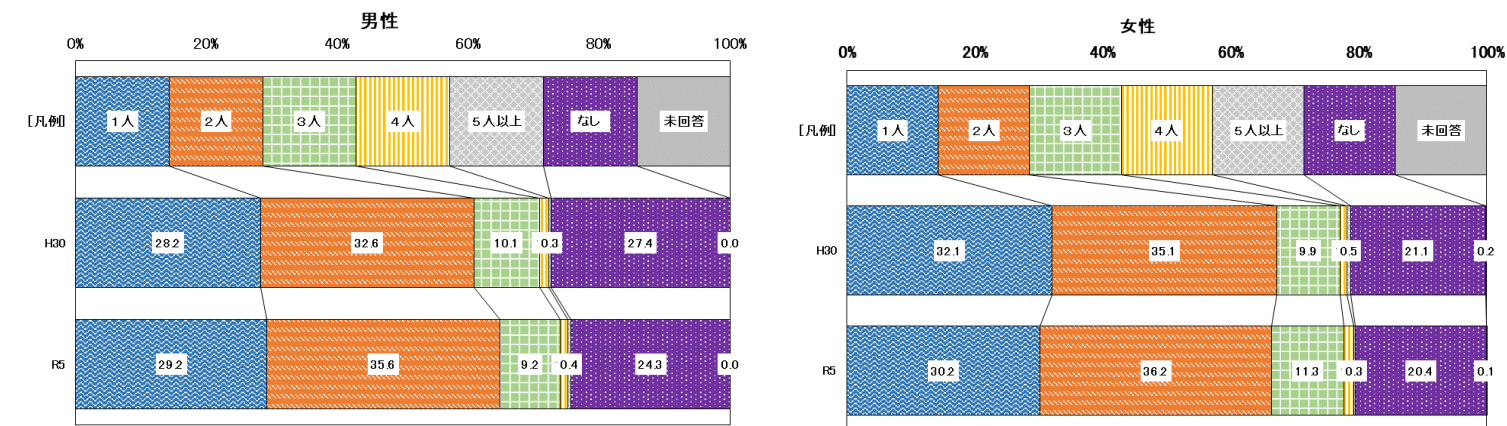
項目	今回(R5調査)	前回(H30調査)
有配偶者割合 ※国勢調査における18～34歳の有配偶者割合(女性)	0.262	0.288
夫婦の予定子ども数	1.706	1.969
独身者割合	0.738	0.711
独身者のうち結婚を希望する者の割合	0.876	0.907
独身者の希望子ども数	1.609	1.815
離死別などの影響	0.966	0.955
希望出生率	1.44	1.65

・独身者のうち結婚希望者は 0.031減であり、あまり変化していない
・有配偶者の予定子ども数、独身者の希望子ども数はどちらも約0.2減少
⇒結果、H30調査時に比べ希望出生率は約0.2減少している

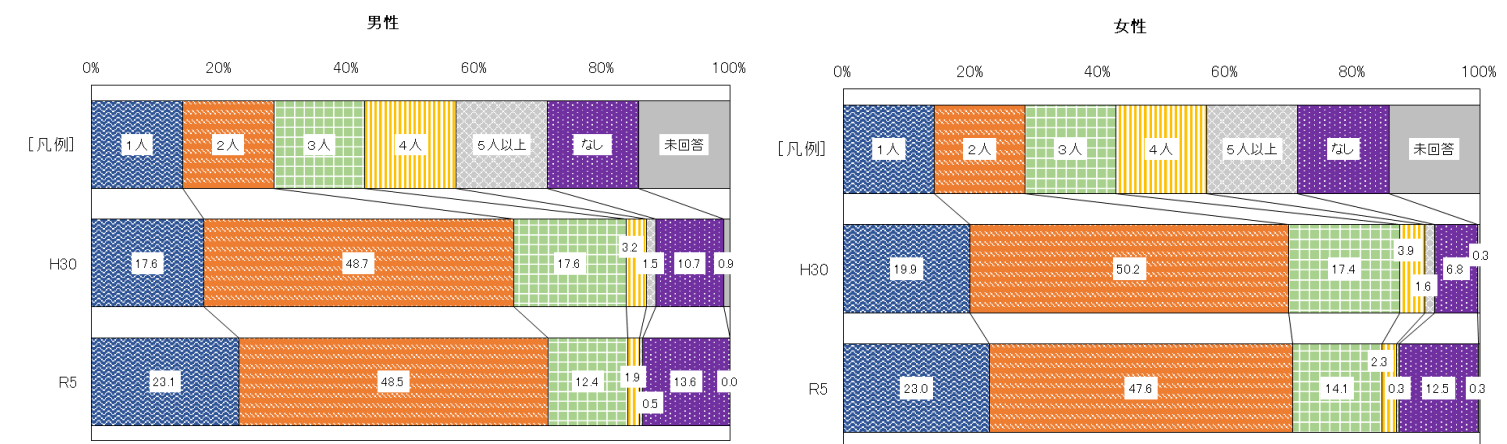
次期さっぽろ未来創生プラン策定に向けた基礎調査について

■アンケート調査結果(抜粋) 有配偶者

○これまでに持った子どもの数



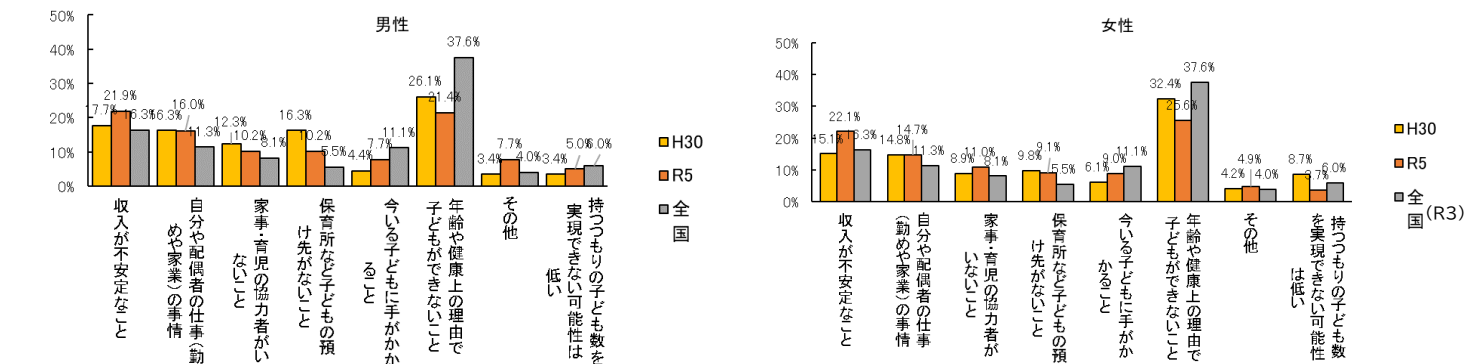
○実際に持つつもりの子どもの数



※全国アンケートは回答対象年齢などが異なるため比較不可

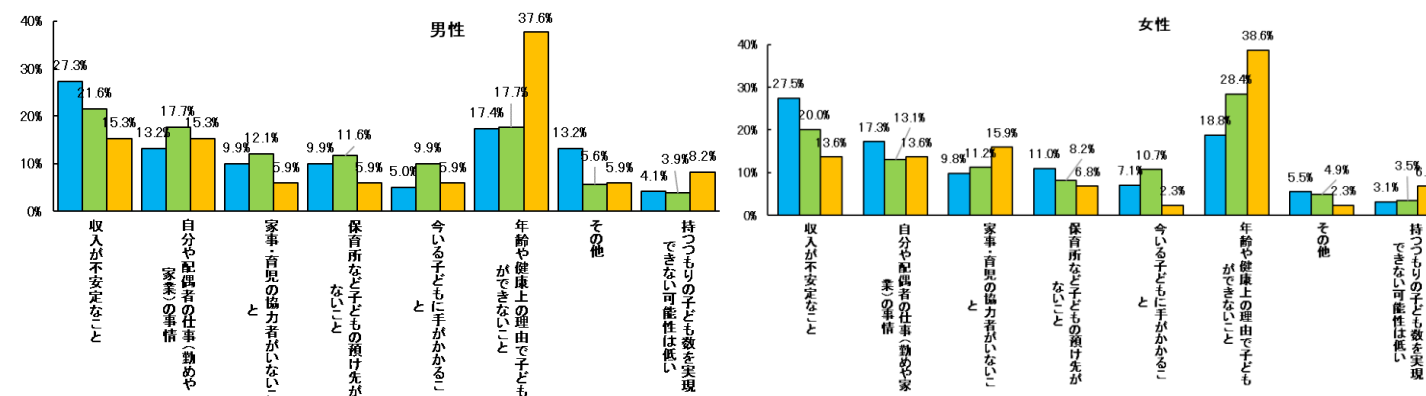
- ・男女ともに、H30に比べて「なし」「1人」が増加、「2人」はほぼ変わらず、「3人」以上が減少している

○持つつもりの子どもの持てない要因



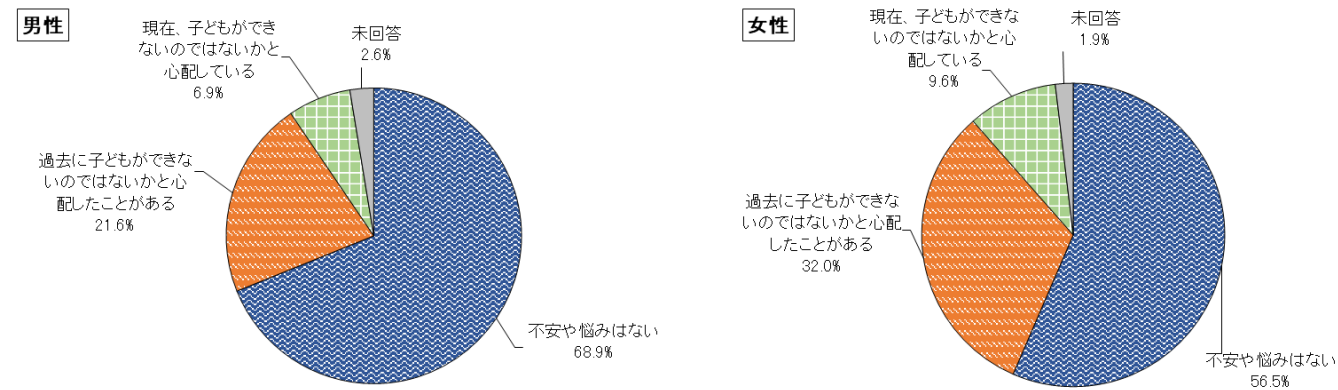
- ・男女ともに、H30および全国と比べて「収入が不安定なこと」の割合が高い
- ・「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」の割合は、男女ともH30および全国と比べて低いものの、女性においては本要因が最も高くなっている

※持つつもりの子どもの持てない要因(R5回答・年代別)



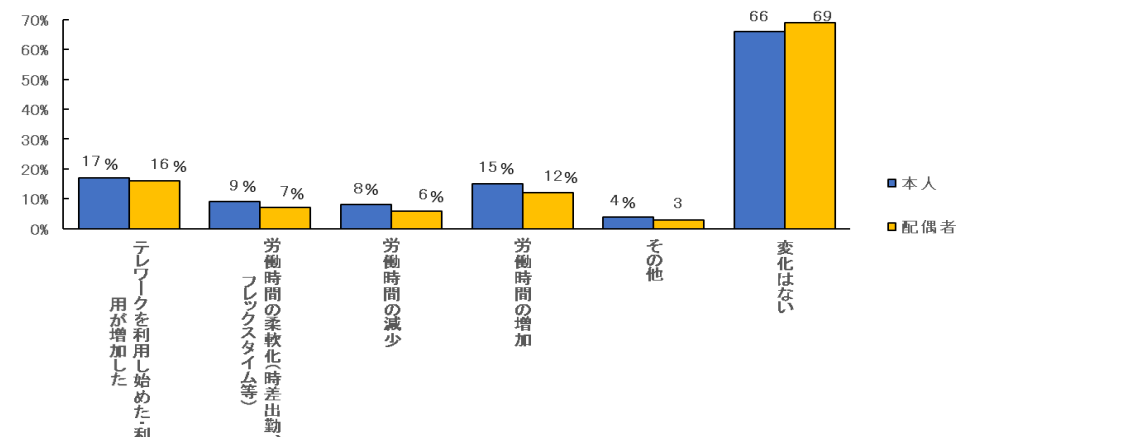
※全国アンケートは集計時の年齢区分が異なるため比較不可

○不妊について不安や悩みはあるか(R5新設・本市アンケート独自項目)



- ・男性は3割、女性は4割が不妊について不安や悩みがある(過去にあった)と回答している

○新型コロナウイルス感染症による働き方への影響(R5新設・本市アンケート独自項目)

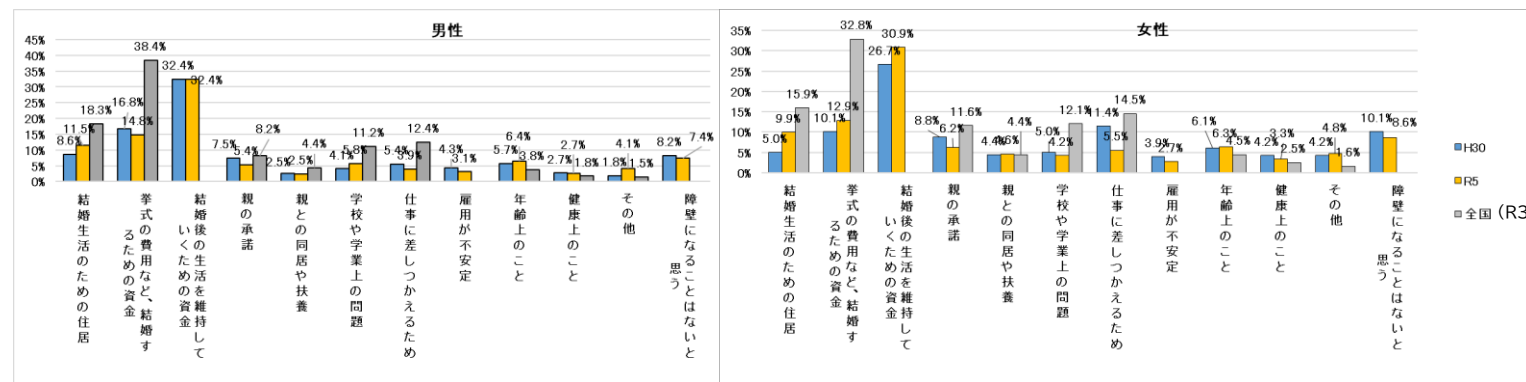


- ・約3割の回答者について、自身(又は配偶者)の労働環境・労働時間に変化があり、「労働時間の増加」が減少を上回った

次期さっぽろ未来創生プラン策定に向けた基礎調査について

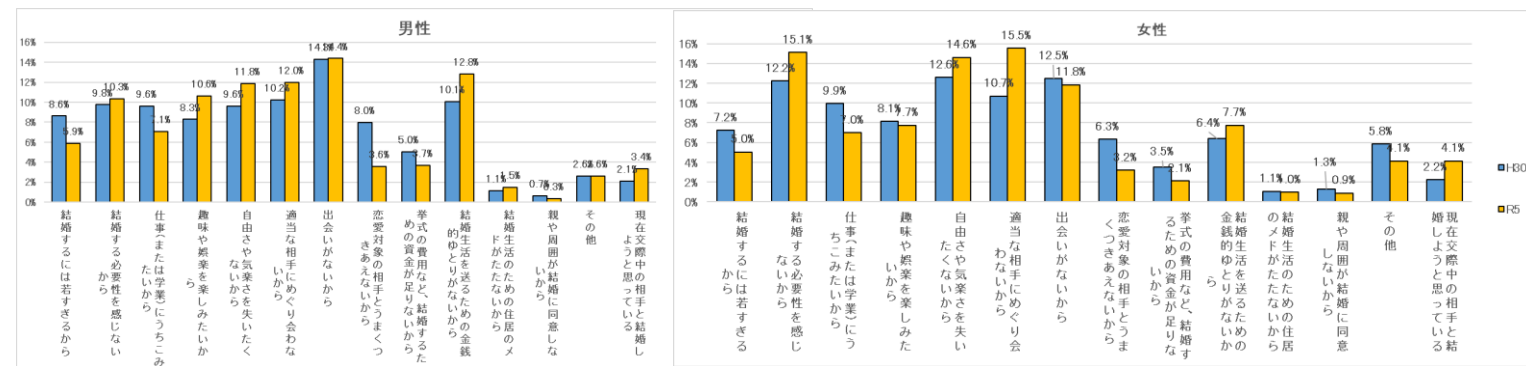
■アンケート調査結果(抜粋) 独身者

○交際相手と結婚するにあたっての障壁



- ・男性については、H30から引き続き、「結婚生活を維持していくための資金」が最も多い理由となった
- ・女性についても同様に、「結婚生活を維持していくための資金」が最も多い理由となり、また、「結婚生活のための住居」が増加し、「仕事に差しつかえる」が減少した

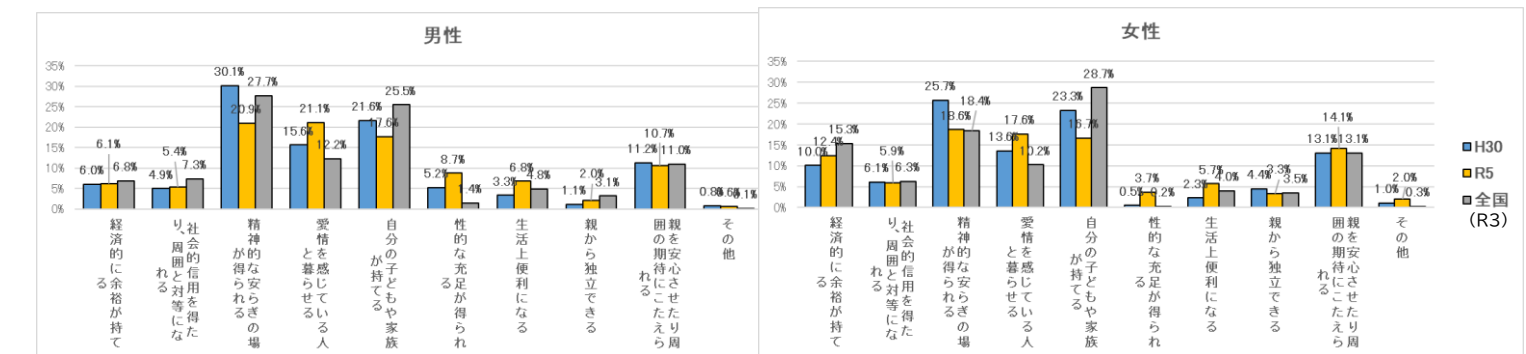
○独身でいる理由



※全国アンケートとは選択肢が異なるため比較不可

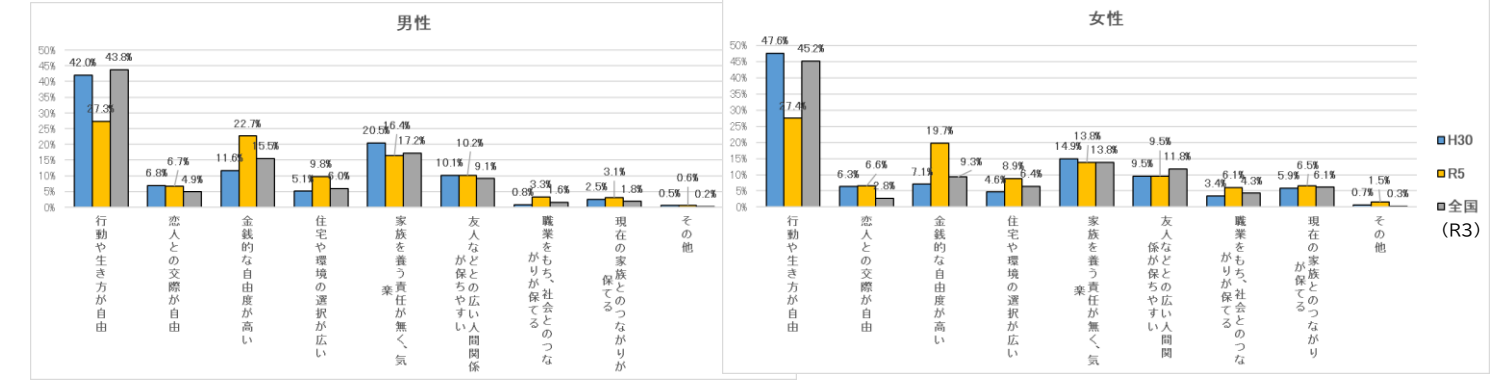
- ・男性については、「趣味や娯楽を楽しみたい」「自由さや気楽さを失いたくない」「適当な相手に巡り会わない」「金銭的ゆとりがない」が増加している
- ・女性については、「結婚する必要があるない」「適当な相手に巡り会わない」が特に増加している

○結婚のメリット



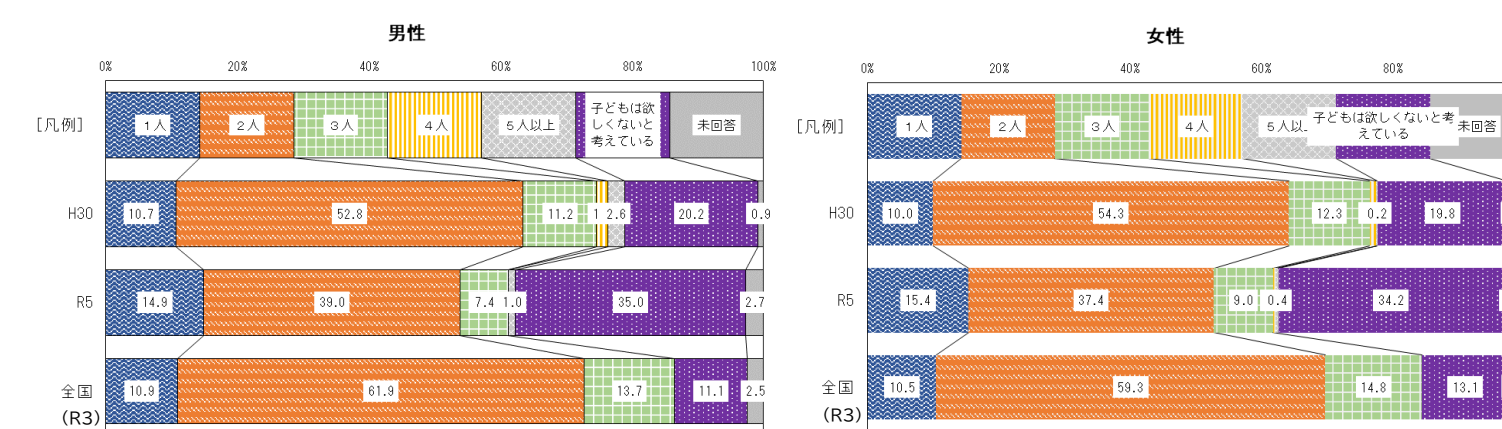
- ・「愛情を感じている人と暮らせる」が増加した一方、「精神的な安らぎの場が得られる」「自分の子どもや家族が持てる」が減少した

○独身のメリット



- ・男性女性共に、「行動や生き方が自由」が減少した一方、「金銭的な自由度が高い」「住居や環境の選択が広い」が増加した

○欲しい子どもの数

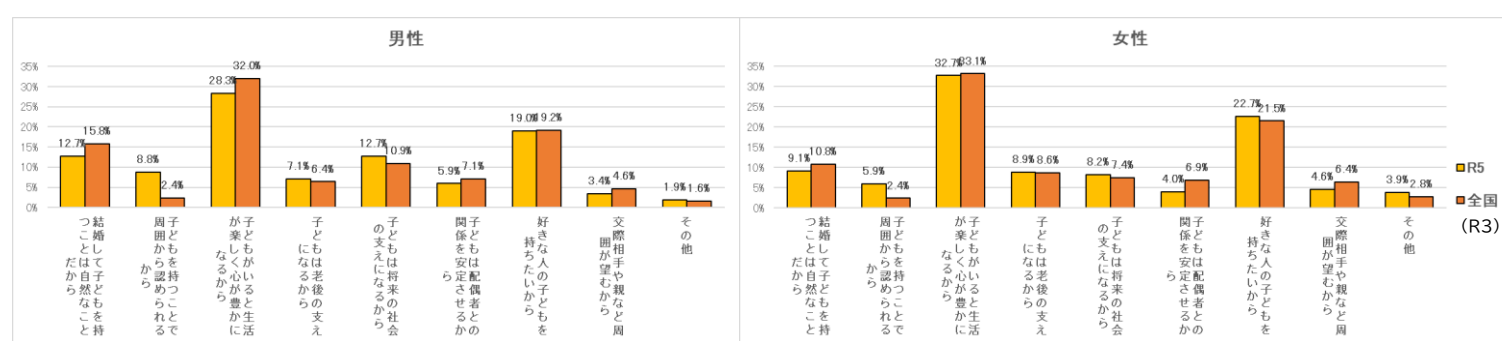


※全国調査の選択肢は、「1人」「2人」「3人以上」となっている。

※全国調査の選択肢は、「1人」「2人」「3人以上」となっている。

- ・男性女性共に「1人」が微増し、「2人」が大きく減少している
- ・「子供は欲しくない」との回答が大きく増加している

○子どもが欲しい理由



※H30アンケートには本設問がないため比較不可

- ・全国と比べて傾向に大きな差はないが、「子どもを持つことで周囲から認められる」の回答割合がやや高い